

全国月間火山概況（平成 24 年 9 月）

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火は発生せず、火山活動に特段の変化は見られませんでした。新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011 年 12 月頃から鈍化し、2012 年 1 月以降ほぼ停滞していましたが、一部の基線では 5 月頃からわずかに縮みの傾向がみられます。以上のように、新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止し、新燃岳浅部の活動も低下しています。しかし、火口には高温の溶岩が溜まっており、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。新燃岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

桜島では、爆発的噴火を含む活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、やや多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

青ヶ島では、21 日に東京都及び警視庁の協力を得て実施した上空からの観測で、8 月 26 日に海上保安庁によって確認された島の南東沖の変色水は認められませんでした。これにより、島の周辺海域で噴火の発生する兆候はなくなったと考えられることから、8 月 29 日に船舶向けに発表した火山現象に関する海上警報を 21 日に解除しました。また、地震活動や地殻変動には特段の変化は観測されておらず、島内でも噴火が発生する兆候は認められません。噴火予報（平常）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

10 月 8 日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報等の発表状況は表 1 のとおりです。

表 1 10 月 8 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	霧島山(新燃岳)、桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	福德岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新湯焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、口永良部島、
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孺婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德雄、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ペルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

※印を付した火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図1 噴火警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上 100～400mで経過しました。18 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたり 700 トン（前月 8 月 16 日及び 29 日、それぞれ 800 トン、1,000 トン）で、やや多量の火山ガス放出が続いています。三宅村によると、山麓では時々やや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

全磁力連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。

火山性地震はやや少ない状態です。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

GPS 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続しています。島の南北を挟む基線では、2006 年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

青ヶ島 【噴火予報(平常) 及び火山現象に関する海上警報】

東京都及び警視庁の協力を得て 21 日に実施した上空からの観測では、8 月 26 日に海上保安庁によって確認された島の南東沖（島の南端から南東方向に約 1,300m 付近、水深 63m）の変色水は認められませんでした。従来から変色水が見られる島の北端の海岸付近では薄青色の変色水が、島の南東端東側の海岸付近では茶色の変色水が確認されました。

手取山（丸山の北北西約 1 km）に設置してある遠望カメラによる観測では、丸山西斜面に噴気は認められませんでした。5～6 日に実施した現地調査では、丸山の西斜面とカルデラ内壁（北西～西）の地表面温度分布に特段の変化はみられませんでした。調査地点（全 3 点）の噴気はいずれもごく少量で、

前回調査時（今年 2 月）よりも減少していました。噴気温度はいずれも前回調査時と概ね同程度（約 73～100℃）でした。

青ヶ島付近を震源とする火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

島の周辺海域で噴火の発生する兆候はないと考えられることから、8 月 29 日に船舶向けに発表した火山現象に関する海上警報を 21 日に解除しました。引き続き、地震活動や地殻変動には特段の変化は観測されておらず、島内でも噴火が発生する兆候は認められません。

硫黄島 【火口周辺警報(火口周辺危険) 及び火山現象に関する海上警報】

国土地理院の地殻変動観測では、今期間、地殻変動はほぼ停滞しています。今期間、火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動（調和型・単色型）は、今期間、19 回観測しましたが、振幅は小さく、継続時間も 30 秒から 3 分程度と短いものでした。火山性微動を観測した時間帯に、火山性地震の増加や空振、表面現象は認められませんでした。

阿蘇台東（阿蘇台陥没孔の東北東約 900m）に設置してある遠望カメラでは、島西部の阿蘇台陥没孔からの噴気は少ない状態で、噴気の高さは 0～100m で経過しました。また、島北西部の井戸ヶ浜では、噴気は認められませんでした。

硫黄島ではこれまでも 1981-1984 年（防災科学技術研究所等の水準測量と三角測量による）や 2001-2002 年に最大 1 m を超える隆起など顕著な地殻変動が観測されており、隆起が見られていた期間中の 1982 年と 2001 年には小規模な噴火が発生しています。一方、噴火前に必ずしも地震活動が活発化するとは限らず、地震観測が開始された 1976 年以降で見ても、1982 年 11 月の阿蘇台陥没孔や 2001 年 9 月の翁浜沖で発生した噴火、2012 年 4 月 29 日から 30 日の噴火と推定される事象以外は、ほとんどの噴火で事前に地震活動の活発化が認められませんでした。

明治以降の記録に残る硫黄島の噴火はいずれも小規模な水蒸気爆発で、噴火地点は島東部の海岸付近及び井戸ヶ浜から阿蘇台陥没孔を経て千鳥ヶ原にかけての領域に集中しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、2012 年 4 月末に新たに噴気が確認された島北部や変色水がみられた北東沖、従来から小規模な噴火がみられていた島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要です。

福德岡ノ場 【噴火警報(周辺海域) 及び火山現象に関する海上警報】

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生しています。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

阿蘇山 【火口予報(噴火警戒レベル 1、平常)】

噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が概ね火口縁上 200m で経過し、最高で火口縁上 500m まで上がりました。湯だまり量は 9～10 割（8 月：9 割）で特段の変化はありませんでした。湯だまりの表面温度は 54～59℃（8 月：57～61℃）と特段の変化はありませんでした。湯だまりの中央付近の噴湯現象は確認されませんでした。南側火口壁の温度は、250～283℃（8 月：241～249℃）とやや上昇しました。赤外熱映像装置による南側火口壁の温度分布には特段の変化はありませんでした。また、24 日に実施した夜間の現地調査では、第一火口南側の火口壁に赤熱を観測しましたが、前回（6 月 22 日）実施した現地調査と比較して特段の変化は認められませんでした。23～26 日の夜間には高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測しましたが、これは火口壁の赤熱によって生じたものと考えられます。

孤立型微動および火山性地震はともにやや少ない状態で経過していますが、2012 年 2 月頃からわずかながら増加傾向を示しています。孤立型微動の月回数は 867 回（8 月：1,025 回）、火山性地震の月回数は 978 回（8 月：951 回）でした。火山性地震の震源は、中岳第一火口付近のごく浅いところに分布しました。継続時間の短い火山性微動が 1 回（8 月：2 回）発生しました。

19 日と 24 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は 1 日あたり 500～700 トン（前

回、7月10日400トン）とやや多い状況でした。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

中岳第一火口の北西側火口縁にある観測点(CW2、CW3)では、2010年12月頃から全磁力が増加しており、2011年6月頃には全磁力の増加は停滞していましたが、再び増加傾向が認められ火口地下の温度上昇を示唆している可能性があります。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内では土砂や火山灰の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

霧島山（新燃岳）[火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

新燃岳では、今期間、噴火は発生しませんでした(最後の爆発的噴火は2011年3月1日、噴火は2011年9月7日)。噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上概ね50m(最高200m)で経過しました。

火山性地震の月回数は69回と6～8月(6月:23回、7月:17回、8月:37回)に比べてやや増加したものの、少ない状態で経過しました。震源はこれまでと同様に、新燃岳付近の海拔下0～2km付近に分布しました。火山性微動は観測されませんでした(8月:なし)。

14日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの調査を実施しました。火口内に蓄積された溶岩の北側から東側及び南側に複数の噴気孔がみられ、火口内にとどまる程度のごく少量の白色の噴煙が主に北側と東側から上がっていました。また、溶岩には複数の水たまりを確認しました。前回(5月18日)の観測と比較して、火口内に蓄積された溶岩の形状や火口内の噴気状況に変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、噴気が見られる部分や火口内に蓄積された溶岩の縁辺部(特に南側)が比較的高温で、前回と比較して変化は認められませんでした。西側斜面の割れ目では、噴気は確認できませんでしたが、赤外熱映像装置による観測では、前回の調査と同様にやや温度の高い部分が認められました。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月初め頃から鈍化しました。2012年1月以降はほぼ停滞していましたが、「えびの」－「牧園」基線では5月頃から、「牧園」－「都城2」では6月頃からわずかに縮みの傾向が見られます。新燃岳周辺のGPS連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

26日に実施した現地調査では、二酸化硫黄放出量は最大でも1日あたり10トンとごく少ない状態でした(前回8月31日:10トン(最大値))。

新燃岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石(火山れき)が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。噴火警報や霧島山上空の風情報に留意してください。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に留意してください。

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。噴火の回数は73回(8月:59回)でそのうち爆発的噴火の回数は48回(8月:43回)でした。11日18時28分と24日12時52分の爆発的噴火に伴って大きな噴石が3合目(昭和火口から1,300m～1,800m)まで達しました。24日12時52分の爆発的噴火では、東郡元空振計(昭和火口から西へ10kmの鹿児島地方気象台)で61Paの空振を観測しました。この空振は、2006年以降活動を再開した昭和火口の噴火としては、東郡元空振計で観測された空振のうち、最も大きな値でした。11日15時55分の爆発的噴火ではやや多量の噴煙が火口縁上3,500mまで上がりました。火砕流は観測されませんでした。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を4日及び8、9日に観測しました。

南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は、少ない状態で経過しました。月回数は349回と8月(370回)に比べ同程度でした。震源は南岳直下の海拔下1～3km付近に分布しました。噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は283回(8月:270回)でした。継続時間の月合計は82時間05分で8月(37時間54分)に比べて増加しました。

19日と25日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり2,700～3,700トン(8月:2,600～3,300トン)と非常に多い状態でした。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2012年2月頃から山体の変動は停滞し

ていましたが、8月頃からわずかに沈降しています。GPS 連続観測では 2011 年 9 月頃から桜島島内のわずかな伸びの傾向が続いていましたが、2012 年 2 月頃から鈍化し、6 月頃から停滞しています。また、国土地理院の地殻変動観測結果によると、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられます。

鹿児島地方気象台での観測では、月合計 194g/m²（降灰日数 9 日）の降灰を観測しました。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の 8 月の総噴出量は 34 万トンでした。今年 1 月から 8 月までの総噴出量は 487 万トンと昨年 1 年間（445 万トン）より多くなっています。

14 日に海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、昭和火口からは灰色の噴煙が、北東へ流れていました。火口内は噴煙のため不明でしたが、赤外熱映像装置による観測では、噴煙の放出部分が高い温度となっていました。南岳山頂火口からは白色の噴煙が、北東へ流れていました。火口内は、噴煙のため不明でしたが、赤外熱映像装置噴煙による観測では、前回（4 月 5 日）と同様に B 火口壁に熱異常域が認められました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。白色の噴煙が、最高で火口縁上 500m まで上がりました。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。11 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、硫黄岳山頂火口および東側山腹から白色の噴煙が上がっているのが確認されました。

火山性地震の月回数は 193 回（8 月：187 回）と少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした（8 月：なし）。

GPS 連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

御岳火口では、爆発的噴火は発生しませんでした。28 日と 30 日にごく小規模な噴火が発生しました（8 月：なし）。噴煙の最高高度は火口縁上 400m（8 月：最高 300m）でした。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、28 日と 30 日に島内の集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰が確認されました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。A 型地震の月回数は 37 回（8 月：17 回）でした。B 型地震の月回数は 86 回（8 月：39 回）で、そのうち 54 回が 28 日に発生しました。27 日以降、火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計は 67 時間 52 分（8 月：なし）と増加しました。

御岳火口では、長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

（火山の順は活火山総覧（第 3 版）による）

資料１ 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成 24 年 10 月 8 日現在）

（１）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 9 月29 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17 日 噴火予報（平常） 2008年11月17 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 4 月10 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	大雪山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年12月16 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 6 月 9 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年10月27 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	鳥海山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	安達太良山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	那須岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
関東・中部地方	日光白根山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2009年 4 月10 日 噴火予報（レベル 1、平常）切替
	浅間山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2008年 8 月 8 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 2 月 1 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2009年 2 月 3 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2009年 4 月 7 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2010年 4 月15 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年３月31日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福德岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月１日 噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	噴火予報 （レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年５月16日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年６月20日 噴火予報（レベル１、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山（新燃岳）	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月22日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年３月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年４月16日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年５月６日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年１月26日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2011年１月31日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年２月１日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年３月22日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2012年６月26日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年２月３日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年２月20日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年４月８日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年７月14日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年７月28日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年８月28日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年２月２日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年２月19日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年３月２日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月10日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年４月24日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年７月19日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2010年９月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年10月13日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2012年３月12日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2012年３月21日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年１月25日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年９月４日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月18日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年８月４日 噴火予報（レベル１、平常） 2009年９月27日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年12月15日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2012年１月20日 噴火予報（レベル１、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成 19 年 12 月 1 日の噴火警報・噴火予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山（＊印を除く）では平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。また、＊印の活火山では、活火山として選定された平成 23 年 6 月 7 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、ア CANDANA 山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山